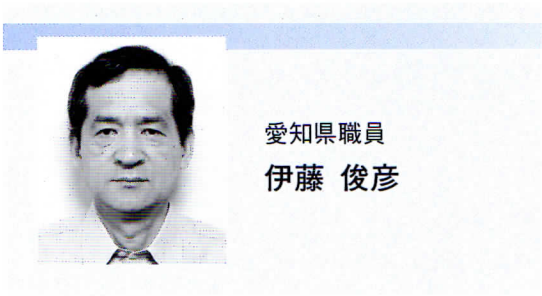
タシケント国立法科大学での図書寄贈式典に出席して



愛知県職員
伊藤 俊彦

■ ウズベキスタン訪問まで

私どもの長男康祐は、名古屋大学法学部在学中、発展途上国の法整備支援に関心を持ち、将来はこれに関わる仕事をしたいと念願しておりましたが、2009年3月29日、その夢を果たすことなく21歳で急逝しました。私どもは、故人の遺志を少しでも生かそうと、法学部の先生方とご相談し、香典を寄付して名古屋大学伊藤康祐基金を設立していただきました。

以来、同大学の全面的なご援助のもと、タシケント国立法科大学、モンゴル国立大学内の日本法教育研究センターに法学、日本語入門書などを寄贈していただいたところです。

さらに、昨年は、タシケント国立法科大学にロシア語と英語の法律書を寄贈することになり、名古屋大学法学部で書目の選定等を進めていただいておりました。そうした矢先、法科大学のルスタムバーエフ・ミルザユスープ学長から、図書の寄贈式典を行うので出席されたい旨の書簡を頂戴しました。そこで、私ども夫婦は、親しいウズベク人留学生が郷里で挙行予定であった結婚式への出席も兼ねて、同国を訪れることとした次第です。

■ 寄贈式典への出席

9月2日、式典に先立ち法科大学内の日本法教育研究センターにお邪魔して、学生に人気がある本を担当の方から教えていただくなど、基金によって寄贈された図書がいかに活用されているかを現場で拝見することができ、感慨深いものがありました。

寄贈された図書の一部

式典は多数の大学関係者の臨席のもと盛大に行われました。ルスタムバーエフ・ミルザユスープ学長、CALEの市橋克哉センター長のごあいさつ、学長への寄贈図書の目録の贈呈、私のあいさつ、記念プレートの学長への贈呈などの後、康祐の軌跡を辿るスライドが上映されました。これはCALEの牧野絵美助手が作成してくださったもので、思いもかけぬ康祐との再会に胸が熱くなりました。

■ 最後に

ウズベキスタンや日本で同国の若者たちと親交を深め、彼らの旺盛な知識欲、明朗闊達で開放的な態度に感銘を受けております。私が在学していたころとは様変わりして、多数の留学生が名古屋大学で勉学、研究に勤しんでいることも知りました。康祐もそうした開かれた環境で、留学生の皆さんから刺激を受けつつ将来への夢を育んだのでしょう。

基金はごくささやかなものですが、現下の事情のもとで少しでもお役に立てば、これに過ぎる喜びはありません。寄贈された図書が、各国の将来を担う若者や研究者の方々に大いに愛読されることを念願しております。

最後になりましたが、式典の開催、出席についてご配慮を賜り、同行させていただいた市橋センター長、牧野助手を初め、名古屋大学法学部、CALEの関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

ルスタムバーエフ学長、市橋センター長とともに

※伊藤康祐さんが生前残した膨大なブログの中から一部を選定し、一冊にまとめた『個独のブログ』が三五館より2010年に出版されました。また、インターネット上にブログなどをまとめた「Kousukeのページ」（http://www.ksl.co.jp/kousuke/）が開設されています。